

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<u>合計</u>	<u>30</u>

事業所番号	231001674
法人名	株式会社フレンズホーム
事業所名	グループホーム フレンズハウス中島新町
訪問調査日	平成20年5月14日
評価確定日	平成20年6月5日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月5日

【評価実施概要】

事業所番号	231001674
法人名	株式会社フレンズホーム
事業所名	グループホーム フレンズハウス中島新町
所在地	名古屋市中川区中島新町一丁目502番地 (電話) 052-846-2665

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成20年5月14日	評価確定日	平成20年6月5日

【情報提供票より】(平成20年4月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	17年9月1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	16 人	常勤 11人, 非常勤 5人, 常勤換算 5.34人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,500 円	その他の経費(月額)	31,500 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有)(172,500 円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,100 円			

(4) 利用者の概要(平成20年4月23日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名	
要介護1	8名	要介護2	4名			
要介護3	3名	要介護4	3名			
要介護5	0名	要支援2	0名			
年齢	平均	83.1 歳	最低	68 歳	最高	94 歳
協力医療機関名	医療法人まいさ会 近藤クリニック					

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

名古屋市南西部への交通の拠点地下鉄高畑駅から近く、名古屋市内とは思えぬほど畑が散在するのどかな景色の中にフレンズハウス中島新町は建っている。すぐ西側には荒子川も流れ、子どもたちが釣りに興じる姿も見られる。500m以内に学校、公園、スーパー、病院があり、グループホームの環境としては恵まれている。昔から庄内川河口の肥沃な土地での農業が盛んな土地であったが、地下鉄ができてから急速に発展し、その結果、時代を感じさせる民家と現代的な集合住宅が混在する地域である。家族からは「入居して元気になった」「本人の状態をよく話してくれる」と概ね好評であり、アンケートの気になる点については否定的な意見は見られていない。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回指摘された地域との付き合いにつき、地域の災害訓練に参加したり、医師、歯科医師、薬剤師会も参加する区の介護保険事業者連絡会との連携を深め改善に努めている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は外部の目で見てもらうことで、見落としていることに気づく好機だと感じている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	メンバーは住民代表として民生委員、入居者、他の介護事業者である。回を重ねるごとに質問も多くなり、地域に理解、浸透している実感を感じている。2カ月に1度開催され、議事録は玄関で自由に閲覧できるようになっている。昨年外部評価についても報告されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族から要望があれば各フロアで会議が開催され対応の検討がなされ、結果は管理者から家族に報告される。家族会はないが来訪時に積極的に意見、要望を伺うように努めている。意見箱もあるが、活用されたことはない。管理者に直接要望される家族が多い。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会、老人会、町内行事にも参加している。地域の運動会、町内の草むしり、地域の防災訓練にも参加している。地域主催の健康フェスタのポスターも玄関に掲示されている。子ども110番も引き受けている。時々、職員の子どもが友達を連れてホームを訪れ、入居者と交流している。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『地域に根差し、明るく、楽しく、元気よく』は地域密着サービスに相応しいよう、昨年見直された理念である。地域に溶け込むために町内の草むしり、老人会などに参加している。職員が元気でないと理念が実践できないため職員も務めて明るく仕事をしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常の職員会議で理念を確認している。理念は、介護のスタートラインとしての位置づけのため、介護の場面では常に職員の指針となっている。理念実現のため入居者には制限を設けず、生活してもらっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会、老人会、町内行事にも参加している。地域の運動会、町内の草むしり、地域の防災訓練にも参加している。地域主催の健康フェスタのポスターも玄関に掲示されている。こども110番も引き受けている。時々、職員のこどもが友達を連れてホームを訪れ、入居者と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の評価結果を基に、理念を見直し、地域防災訓練に参加するようになった。管理者は外部の目で見ってもらうことで、見落としていることに気づく好機だと感じている。運営推進会議でも報告され、グループホームを理解してもらうために役立てている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>メンバーは住民代表として民生委員、入居者、他の介護事業者である。回を重ねるごとに質問も多くなり、地域に理解、浸透している実感を感じている。2カ月に1度開催され、議事録は玄関で自由に閲覧できるようになっている。昨年の外部評価についても報告されている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>区役所の福祉担当者を月に1回は訪問し、必ず報告している。本来なら特別養護老人ホームに入所すべきなのにグループホームが受け皿となっている現状に、行政のスタンスを計りかねて、今一歩踏み出せないでいる。『行政はホームの運営推進会議に参加してくれない』との同業者の声もあり、なかなか現状打破できない。</p>		<p>行政の規模から、名古屋市では行政の参加は望めないとしても、ホームの要請や高齢者介護・福祉に関する行政のノウハウ、情報利用などのために一歩を踏み出し、行政との距離を縮める手段を考慮されたい。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>2～3か月に1度『フレンズ通信』を発行し、家族に配布している。家族の来訪があればそのつど、来訪がない場合も月に1度は近況報告しており、変化があればその都度報告している。月1回の請求書送付時には必ず手紙を同封している。クリスマス会、旅行などの報告もしている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族から要望があれば各フロアで会議が開催され対応の検討がなされ、結果は管理者から家族に報告される。家族会はないが来訪時に積極的に意見、要望を伺うように努めている。意見箱もあるが、活用されたことはない。管理者に直接要望される家族が多い。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>定期異動はなく、常勤職員で担当を決め入居者に無駄な動揺を与えないように配慮している。職員の離職は運営推進会議で報告され、議事録は公開されている。離職の場合は引き継ぎ期間として1カ月間を見込んでいるが、自己都合による突然の離職および職員募集に頭を痛めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営規定において採用時に1カ月以内、毎年1回以上の研修を約束している。研修にはパート職員も参加し、認知症の周辺症状、ターミナルケア、精神薬などの研修資料も回覧されている。閲覧者は研修資料に確実に押印している。年間計画はないが各方面から送られる研修に対して、正社員、パート職員の区別なく、参加できる人から受講させている。また、職員の資格取得支援にも積極的に取り組んでいる。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>名古屋市のグループホーム協議会および中川区の介護保険事業者連合会に加盟している。市の協議会の研修が年5回開催され、管理者が参加している。職員も研修会に参加し、グループワークを行なっている。職員の採用状況や入居者の待機情報、レクリエーション行事のノウハウについて参考になった。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人、家族が納得し信頼関係を築いた上でないと共同生活を営めないため、見学はいつでも受け入れている。家族の希望があれば管理者に職員が同行し、本人のバックグラウンド(背景)の調査や、それを補うための環境調査もしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>洗濯物干し、洗濯物たたみ、各自への小皿の配布、洗面所の手入れ、玄関の草花の手入れを引き受けてもらっている。場合により洗濯の全工程を任せる場合もある。料理の味見をしてもらったり、植物の育て方、おやつ作りのアドバイスに力を貸してくれる。また、入居者は職員に感謝の言葉を日常的にかけている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時の調査、本人のバックグラウンド（背景）を基に最初の介護プランを立案する。自分から『あそこへ行きたい』との要望はないが、遠足の目的地を聞き、『私の故郷なので行きたかった』と話してくれた。生家に連れて行ってあげたいが、距離の問題、人員の確保や費用、移動中の安全など超えるべきハードルは多い。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者、家族の要望、ニーズの把握に努め、職員の申し送りノートを参考に、ケース会議を行なっている。ADL(日常生活動作)が変わった時はその場にいる職員で話し合い管理者に報告をしている。介護計画に各入居者の担当者がアセスメント(課題分析)を行い、計画作成担当者と一緒に介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>月に1回ケース会議を行い、3カ月毎にモニタリング(評価)を実施している。日々の見守りにて入居者の状態の把握に努め、個別記録を参考にして、状態に変化があった時は随時見直しが行われている。ユニット会議は毎日行われており、毎日の記録を付けることで入居者の体調の変化に対しての気づきが介護計画に活かされている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制加算を取っている。入院された時は病院のワーカー、看護師と連絡を密に取り、お見舞いには週2~3回行っている。退院された時は、看護師と24時間連絡可能な体制ができており、相談、アドバイスが職員の安心につながっている。訪問理美容、訪問マッサージはホームに来てもらっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>毎週月曜日が主治医の往診日になっている。認知症に関して知識が豊富な主治医で、認知症に関する相談にのってもらっている。地域の訪問医療が専門の医師で心強い。入居前のかかりつけ医、内科、皮膚科、眼科病院に通っている人もいる。家族が通院介助ができない場合は、職員が通院支援を行っている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時に「重度化時における医療サービス提供内容に関する指針」を説明し同意書をいただいている。ターミナルケアの経験はないが、かかりつけ医との協力関係はできている。ターミナルケアの研修会に職員が参加し知識を共有している。ターミナルケア受け入れの話し合いは職員間でできているが、受け入れ体制がこれからの課題である。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者、家族から情報提供書、同意書をいただいている。文章の中には利用目的が明記されている。職員採用時に個人情報に関する誓約書を取っている。書類などは事務所で保管し、名前が記載してある書類、メモはシュレッターにかけ破棄している。トイレ介助時の声かけ、入浴時のプライバシーに対して具体的に職員間で話し合い、さり気ない言葉かけや対応に期待したい。</p>		<p>トイレや入浴の介助の際には、入居者本人の自尊心やプライドを傷つけないよう注意を払い、また、プライバシーへの配慮が大切である。常にそのことを意識し、職員同士で確認していくことで、職員によって対応に違いが生じないように、声かけや対応について統一されることを期待したい。</p>
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>花見、買い物ツアー、遠足など外出計画は盛り沢山に用意されている。月水金と火木土の二組に分け散歩している。『ビールが飲みたい』との声に応え2カ月に1度くらい飲酒できるような機会をつくっている。時々家族のもとへ帰ったり、家族と旅行に出かける入居者もある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>毎月24日はお寿司の日、誕生日には入居者の希望メニューを取り入れている。「ウナギ」が入居者の人気メニューである。屋台ラーメンの日があり昼間ラーメン屋さんに来てもらい入居者に好評を得ている。苦手な食材がある場合は別の食材を用意している。壁には本日のメニュー(昼、夜)が掲示しており、入居者は職員と一緒に食事を楽しんでいる。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>基本的には午後から週3回入浴だが、毎日入浴される入居者もいる。入浴を拒否される方には時間をずらしての声かけを行っている。身体の不自由な方のために1階風呂場にリフトが設置してあり、現在3名の方が利用している。同姓介助を希望される方もいる。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>玄関プランターにて、ナスやキュウリ、花を入居者が管理し育てている。食器拭きや洗濯物干しは当番制で入居者の協力を得ている。入居者との会話の中で岐阜県出身の方がいて岐阜県昭和村へ出かけることになった。家族調査より「グループホームに入って元気になって喜んでいる」という声が聞かれる。</p>		
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>手作りのお弁当を持って遠足に出かけている。ドライブは入居者の楽しみで目的を持って行く方、車に乗っているだけで満足している方色々である。週3回散歩は中央公園に出かけ、地域の方に出会うと入居者が挨拶を交わしている。希望に応じて買い物ツアーに出かけているが軽自動車のため出かけられる方に限りがあり、新たに福祉車両(普通車)を購入する予定である。それにより外出希望者に対応することが可能になる。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関には介護相談支援の案内が掲示しており、地域の方にいつでも気軽に立ち寄れる場所にしたいという思いから、日中玄関は開放している。施錠は入居者家族が帰宅された後、夜8時から9時頃防犯のため、鍵をかけるようにしている。入居者の動きは職員が目配り、気配り、声かけをし把握している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>防火管理者が年間計画を立て、年2回夜間帯に火災発生を想定しての訓練が入居者、職員一緒に行なわれ、管理者は消火器の使い方を職員に説明している。災害に備えた備蓄品は3日分準備されており、半年に1回業者による設備定期点検を実施している。防災訓練は推進会議に民生福祉会長に声かけをしている。中島学区自主防災訓練に職員が参加している。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事、水分量のチェックを毎食後に個別票に記録し職員が共有している。栄養状態は年2回健康診断と協力医による年1回の健康チェック、体重測定毎月1回行い把握している。検査結果でコレステロール値の高い方が判明し、かかりつけ医から体重制限の指導を受けた。便秘予防に牛乳を飲むようにしている。</p>		<p>栄養摂取のバランスや栄養の偏りなどについて専門職のアドバイスを受けることなど検討されることを期待したい。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関先には季節の花、野菜をプランターで育て水遣りは入居者をお願いしている。玄関には職員、職員のこどもが集めてきたどんぐり、松ぼっくり、また、入居者がポリエステル繊維を利用して作った「となりのトトロ」は大きく、人目を引く可愛らしさあふれる作品である。フロアはゆったりとした広さがあり、壁には折り紙作品、こいのぼりや手作りの身長計、クラブ活動で作成した作品も飾っている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>物品などの持ち込み制限がなく、各居室は入居者の思いが詰まった荷物が持ち込まれている。テレビ、タンス、一面鏡、仏壇、冷蔵庫など、壁には入居者の好みのポスター、作品、ホームで行われたボウリング、輪投げ大会の表彰状、ベランダには入居者が育てている花など、各入居者の過ごしやすい居室になっている。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。